
複言語・複文化状況における 日本語教育

ーことばの教室で私たちがめざすもの

細川 英雄(早稲田大学)

<http://www.gsjal.jp/hosokawa/index.html>

2008年1月15日 ベルリン自由大学日本学科

複言語・複文化状況における日本語教育

ーことばの教室で私たちがめざすもの

はじめにー複言語・複文化とは何か

I 日本語教育の歴史と現在

II 日本語教育における実践研究

III 実践研究のための新しい場を求めて

はじめに一複言語・複文化とは何か

多言語・多文化主義multi—社会を対象

複言語・複文化主義pluri—個人を対象

CECRL(ヨーロッパ共通参照枠 2001)との関係

言語と文化は一体のもの

文化を学ぶこと＝社会を学ぶこと

社会の多様性・複雑性を知る

I 日本語教育の歴史と現在

【60・70年代】

- ・オーディ・オリンガル
 - ・文型積み上げ
 - ・教師主導
 - ・構造重視
 - ・教育内容開発
 - ・日本文化：文学・芸術・宗教・建築...
(Large Culture 見える文化)
-

I 日本語教育の歴史と現在

【80年代】

- ・コミュニカティブ・アプローチ
 - ・概念・場面シラバス
 - ・学習者中心
 - ・場面重視
 - ・習得方法開発
 - ・タスク型学習(例:ロールプレイ等)
 - ・日本人の日常生活 : 行動様式・思考方法
(**Small Culture** 見えない文化)
-

I 日本語教育の歴史と現在

【90年代から】

- ・協働学習
 - ・学習者主体
 - ・関係重視
 - ・問題発見解決学習
 - ・教えない教室
 - ・アイデンティティの構築
(「文化を教えること」への問い直し)
-

I 日本語教育の歴史と現在

【21世紀の課題】

- ・90年代からの発展
 - ・社会の多様性・複雑性を考える
 - ⇒行為者のアイデンティティの構築(再・共)へ
(文化はアイデンティティの中にある)
 - ⇒社会をつくる個人へ
 - ・ポートフォリオによる意識化と自己調整
 - ・教室は、アイデンティティ調整の場、そのような環境をどうつくるか
-

Ⅱ 日本語教育における実践研究

充実した教育実践(授業)とは何か
(現場が命、教室こそ原点)

そのために教師は何をするのか？

教室への「振り返り、検証、評価」の循環形成

- 「実践=研究」という「実践研究」の考え方
 - 「私はなぜ教えるのか」という問い
 - 教育研究活動として教室をひらく意味
-

Ⅱ 日本語教育における実践研究

「実践研究」の立場をつくる

－設計・具体化・振り返り

- ①学習者の表現活動を活性化する教室をどのように**設計**できるか。
 - ②設計した教室活動空間をどのように**具体化**しそこで学習者の活動をどのように支援できるか。
 - ③教室の理念・設計を**振り返り**、どのようにして次の教育実践へつなげるか。
-

Ⅲ 実践研究のための新しい場を求めて

社会行為者としての学習者の活動

- ・自分の考えを表現する。
- ・他者の考えを聞く。
- ・自分の考えを更新する。
- ・複数の他者と自分、社会との関係について考える。

活動は、他者との交流によって活性化する。

Ⅲ 実践研究のための新しい場を求めて

自分の教室をひらくとは？

表現者としての教師の活動と役割

- ・設計(自分の考え)
- ・具体化(自分のめざす活動)
- ・振り返り(他者からの評価、自己の内省)

教育活動は、公開によって、より充実する。

Ⅱ 日本語教育における実践研究

「総合活動型日本語教育」の実際

考えるための日本語

問題を発見・解決する力とは何か

2003年3月製作

早稲田大学大学院日本語教育研究科

言語文化教育研究室

Ⅲ 実践研究のための新しい場を求めて

- ・教室は一つの社会

社会における言語使用とは何か

言語活動は教えられるのか

（日本語を教えるとは何か）

〈教える—教えられる〉関係から〈学びあう〉関係へ

アイデンティティ構築への言語教育とは何か

言語教育学の成立と社会的位置づけ

人は言語を学ぶことで何を得るのか

言語教育学の政治的役割・制度へのかかわり

Ⅲ 実践研究のための新しい場を求めて

- ・教室の充実は、政治・制度とどうかかわるのか
教室のめざすもの＝人間のめざすべきもの
人間性回復への言語教育学
自分のことばを取り戻す場としての教室
 - ・岐路に立つ日本語教育の今後
「実践＝研究」を共有できるか
教育活動の内実の公開と議論
対話型データベースの構築へ
社会を作る個人の育成へ
-

参考文献

- Cadre europeen commun de reference pour les langues:apprendre,enseigner,evaluer,division des langues vivantes,Strasbourg,Didier,2001 (吉田茂、大橋理恵訳『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社、2004)
 - 細川英雄『日本語教育は何をめざすか一言語文化活動の理論と実践』明石書店2002
 - 細川英雄『研究計画書デザイナー—大学院入試から修士論文完成まで』東京図書2006
-